

山陽小野田市に凱旋！ 報告会 & 交流事業

「東京2020パラリンピック」で活躍したパラサイクリング日本ナショナルチームが10月15日、本市に凱旋し、藤田市長への報告や埴生小学校での児童との交流、山陽オートレースの観戦をしました。パラサイクリングについて詳しくは、市ホームページをご覧ください▶

【A報告会：市役所】

選手や監督は、大会の結果や様子などの報告を行いました。藤田市長は「大きな勇気と感動をいただいた」と感謝を述べ、ガラスのプレートや花束を選手たちに贈りました。

【B埴生小学校との交流】

これまで交流を深めてきた埴生小学校を訪問。児童は、選手に質問したり、金メダルに触れたりするなど貴重な体験をしました。杉浦選手は児童に向けて「金メダルを自分も取ってみたいと思ってもらえたら嬉しい」と話しました。

【C山陽オートレース場】

パラサイクリング日本ナショナルチームの練習拠点となっている山陽オートレース場を訪問し、レース場の関係者と交流しました。また、CS放送に杉浦選手が出演し、選手たちはオートレースも観戦。前のめりになって見入っていました。



井上 剛志さん
(埴生小学校 6年生)

選手との交流を通して

交流の中で、思い出に残っていることは、練習を見学できたことです。片足でも速く走れるところがすごいと思いました。質問で、日本代表の選手でも本番になると緊張することを知って、世界で戦う人たちも僕と同じなのだと思いました。選手のみなさんは、優しく、自分が決めたことを進んでやる心の強い人たちだと感じました。そんなみなさんと交流できてよかったです。練習では、けがをしないように頑張ってください。



交流事業と合宿で深めた絆



角南 一如さん
(山陽オート支部長)

選手団への思い

みなさまのご活躍をモニター越しに拝見しました。杉浦選手のコメントに「自己記録を更新することが大事。昨日の自分よりも今日の自分」とあり、50歳で実際にそれを成し遂げ、見事世界一に輝いたことに感動しました。私も43歳となり身体的な衰えを感じていますが、杉浦選手の言葉を胸に日々トレーニングに励みたいと思います。また合宿等で来られる際には、山陽オートの選手にパワーを頂けたらと思います。選手団のみなさまのこれからのご活躍を応援しています。

